



株式会社北國フィナンシャルホールディングス  
業種：金融  
北國銀行の国内店舗数：104店  
(うち出張所1店／2024年2月現在)



北國銀行本店



左から、能戸千佳夫さん、  
中川貴博さん、南秀明さん。  
北國銀行本店営業部に。

# 口座振替依頼書をスキャンして AI-OCRで読み取り、システム入力を効率化

## 北國銀行「口座振替依頼書登録システム」で 「fiシリーズ」とAI-OCRソフトウェア「DynaEye 11」が活躍

株式会社北國フィナンシャルホールディングスの中核をなす株式会社北國銀行では、人の手による入力作業が不可欠だった口座振替依頼書の登録業務を効率化するため、業務用スキャナー「fiシリーズ」でスキャンした依頼書の文字をAI-OCRソフトウェア「DynaEye 11」で自動認識する「口座振替依頼書登録システム」を開発し、運用を開始しました。当システムの導入によってレガシー業務の一つである口座振替依頼書登録が低コストで刷新されるほか、金融機関を悩ませる人手不足問題の解決にも光が差します。石川県金沢市の北國銀行本店を訪ね、販売も予定される当システムの詳細についてお話をうかがいました。

- 課題** 口座振替依頼書を登録する旧来のシステムが更改の時期を迎えたが、業務の抜本的な効率化が望まれながらも、大きなコストをかけるのが困難だった。
- 解決法** 依頼書を「fiシリーズ」でスキャンしてAI-OCRソフトウェア「DynaEye 11」で文字を自動認識する「口座振替依頼書登録システム」を自社で開発。
- 効果** 従来の手入力作業がなくなり、25%の作業量削減と30%の作業時間短縮が実現したほかランニングコストも低減。今後は他の金融機関に向けてシステムの販売も行う予定。

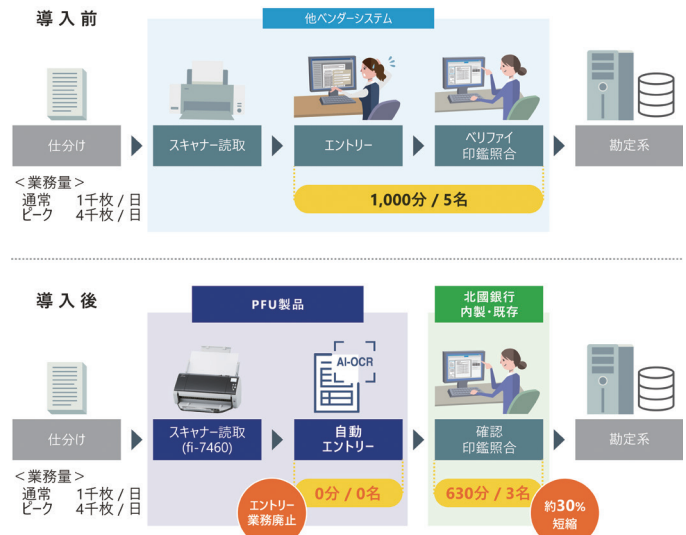
### AI-OCRによる自動認識に活路を見出し、 自社開発システムでレガシー業務を効率化

株式会社北國銀行 オペレーション部 オペレーション企画グループの中川貴博さんに、業務用スキャナー「fi-7460」とAI-OCRソフトウェア「DynaEye 11」を活用した「口座振替依頼書登録システム」の概要をお聞かせいただきます。

**中川さん** 口座振替は、お客様が記入した紙の依頼書の内容を銀行がシステムに登録することで正しく運用されます。当行では従来、登録作業をベンダー製の旧システムで行ってきましたが、手入力が必要だったため大きな手間がかかっていました。



「fi-7460」で依頼書をスキャンし、「DynaEye 11」で文字情報を読み取ります。負担の大きい手入力の工程が省かれました。



旧システム(上段)と口座振替依頼書登録システム(下段)のフロー比較図。約30%の時短が実現しています。

**中川さん** これを効率化したのが口座振替依頼書登録システムです。スキャンした依頼書のイメージデータからAI-OCRでテキストを読み取るので、人の作業は確認と修正だけになりました。旧システムと比較すると、当行のメインシステムにテキストを送って登録するまでの作業量は25%減、作業時間は30%減を実現しています。

これまでは更改を重ねて旧システムを運用してきましたが、レガシー業務である口座振替依頼書登録に大きなコストをかけ続けるのは困難なため、当行では口座振替依頼書登録システムを自社開発しました。この内製にあたって大きな力になったのがAI-OCRソ

フトウェア「DynaEye 11」です。

口座振替依頼書には統一フォーマットがなく、無数の書式が存在します。またAI-OCRで依頼書を読み取るには、どこを読むか事前に指定する必要があります。「DynaEye 11」はこの「書式定義」が簡単にでき、新しい書式が見つかったも現場で迅速な対応が可能です。当行ではシステム導入後、パートの方を含む8人のチームがすぐに運用を開始しており、現在では約1,000種類の定義を登録しています(2024年1月の取材時点)。

## 依頼書を混載してスキャンしても自動で書式を判別、スムーズにOCR処理

次に株式会社北國銀行 オペレーション部 オペレーションセンターセンター長の南秀明さんに、口座振替依頼書登録システム運用のフローをうかがいます。

**南さん** 当行のオペレーションセンターでは通常、一日に約1,000枚の口座振替依頼書を登録します。春の繁忙期には倍増となり一日約2,000枚、ピーク時には約4,000枚に達します。

当行の支店から届く依頼書と、収納代行会社から送られてくる依頼書の2系統があるうち、前者を例に毎日のフローを説明します。約100の支店から届いた依頼書を、「あ・か・さ・た・な」の記号を振った収納先別の束に分けます。各束の枚数確認などの事前準備を済ませたら、分類した記号別に「fi-7460」でスキャンします。「fi-7460」は2台を導入し、2人体制で同時に稼働させています。



依頼書の一部。種類ごとにフォーマットや紙質が異なります。



依頼書の束を「fi-7460」にセットし、次々にスキャンします。

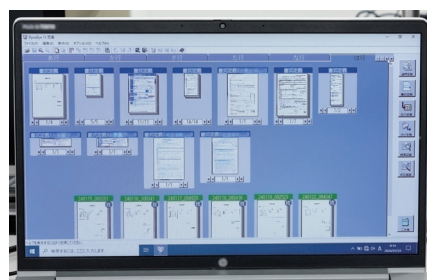
「DynaEye 11」はソフトウェア上の「キャビネット」にいくつもの書式定義を登録できるので、現在約1,000ある定義を分類して複数のキャビネットに収めています。たとえば、「あ」に属する依頼書を混載してスキャンすると、「あ」のキャビネットに登録されている数十種類の書式定

義の中からソフトウェアが自動で判別して読み取ります。定義の選択がキャビネット単位なので、手間と時間が省けます。

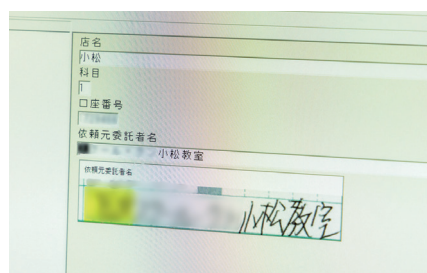
読み取り結果の確認と修正は、ワークフローを複数の端末で共有できる「DynaEye 11」のマルチステーション機能を活用し、10人で10台の端末を使って同時進行します。旧システムでは入力と確認の2段階が必要でしたが、読み取りが完全にできた依頼書は確認だけで終わるようになりました。確認と修正のあと、テキストを勘定系のメインシステムに送り、登録を完了します。

なお、未登録の新しい書式は一日に約10件、見つかります。このときはいったん手入力登録自体を済ませ、その日の登録が終わった段階で書式定義を行います。

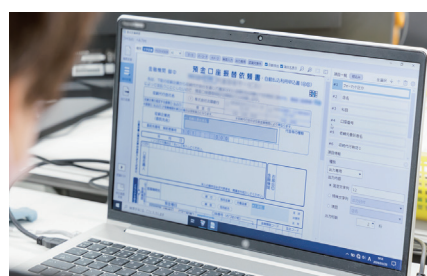
「DynaEye 11」は操作がシンプルなので簡単に書式定義を行えます。



「DynaEye 11」に登録された書式定義。1キャビネットに550まで登録できます。



「DynaEye 11」は手書き文字の読み取り精度が高く、修正が必要な場合も最小限の作業で済みます。



## 人手不足に悩む金融機関にとって口座振替依頼書登録システムは価値ある商品

続いて北國フィナンシャルホールディングスのコンサルティング会社、株式会社CCイノベーションでシニア・コンサルタントを務める能戸千佳夫さんに、当システムの販売についてうかがいます。

**能戸さん** 中規模・小規模の金融機関にとって目下いちばんの問題は人手不足で、解決の道は機械化・自動化です。その点で、手入力の工程を省いた口座振替依頼書登録システムは価値のある商

品といえます。特に「DynaEye 11」はIT熟練者でなくても書式定義を登録できるため、業務の属人化を避けることもできます。

また、ベンダー製の優秀なシステムの場合、機能面・コスト面ともに少々オーバースペックであることが多く、その点でも実際の業務に照らして内製した当システムに価値を感じていただけたと思います。登録済みの書式定義を込みで販売することも可能です。

